

令和5年度奈良県農山漁村発イノベーションサポートセンター支援対象者 申込書

令和5年4月〇日

奈良県農山漁村発イノベーションサポートセンター様

私は、奈良県農山漁村発イノベーションサポートセンターの支援対象者の選考にあたり、次の事項について同意します。

○支援実施後3～5年間の経営改善目標を自ら掲げ、目標達成に意欲的に取り組みます。  
 ○支援実施の翌年度以降、目標年度の翌年度まで、毎年経営改善状況報告書を作成し提出します。  
 ○申込書に記載の内容（個人情報含む）を、地域委員会メンバー、奈良県、近畿農政局等の関係機関、派遣される県農山漁村発イノベーションサポートセンターのプランナーへ情報提供します。

住所	〇〇市〇〇町〇丁目
名称（屋号）	〇〇農園
代表者氏名	代表 〇〇〇〇

1 事業者概要

フリガナ	〇〇ノウエン		
会社名又は氏名	〇〇農園		
代表者	役職名	フリガナ	〇〇 〇〇
	代表	氏名	〇〇 〇〇
担当者	部署・役職	フリガナ	△△ △△
	営業担当	氏名	△△ △△
所在地	〒〇〇〇-〇〇〇〇 〇〇市〇〇町〇丁目		
電話番号	〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇		
携帯番号	090-〇〇〇〇-〇〇〇〇		
FAX番号	〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇		
電子メール	××××@××××.co.jp		
ホームページ	有り		
設立年度	平成15年	資本金	5 百万円
従業員数	(常時雇用) 1 名	(臨時雇用) 4 名	計 5 名

## 2 取組概要（現状と計画）

### （1）経営の現状

経営概要 (要約)	現在、水稻＋野菜（施設トマト、露地キャベツ、ブロッコリー等）の複合経営を行っている。生産した米は、直接販売を行い、野菜類は卸売市場を中心に、一部、直売所等での販売を行っている。					
<b>生産部門（1次）</b>						
現状				3年後		
品目	栽培面積	生産量	販売方法等	栽培面積	生産量	方針
水稻	200a	8t	直売	200a	9t	トマトの栽培面積を増やし、加工品開発を行う。 キャベツは、加工業者との直接取引により、経営の安定化を図る。
トマト	40a	32t	卸売市場直売	120a	96t	
キャベツ	100a	50t	卸売市場直売	150a	75t	
ブロッコリー	70a	21t	卸売市場直売	100a	30t	
※販売方法等は、卸売市場、直接販売、直売所、						
<b>加工部門（2次）</b>						
現状				3年後		
加工商品	製造量	加工施設（委託先）	製造量	方針		
トマトジュース	—	—	3000本	規格外のトマトを利用して、加工品の開発を行う。更に、オリジナルブランドのトマト加工品を製造し、直売で販売する。		
トマトピューレ	—	—	1000本			
ドライトマト	—	—	30kg			
<b>販売部門（3次）</b>						
現状				3年後		
販売商品	流通方法	販売先	流通方法	販売先	方針	
トマトジュース	—	—	直売	直売所 ネット通販	トマトを使った加工品を直売所やネットで販売し、自社ブランドの確立を目指す。	
トマトピューレ	—	—	直売	直売所 ネット通販		
ドライトマト	—	—	直売	直売所 ネット通販		

設定した目標年度を記載

3～5年後、どのような経営をしていきたいかを記載

設定した目標年度を記載

設定した目標年度を記載

(2) 総合化事業計画等の状況

総合化事業計画等の認定の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 総合化事業計画の認定を受けた（令和元年10月23日認定）又は申請する予定である。 <input type="checkbox"/> 総合化事業計画の申請をする予定がない。 <input type="checkbox"/> 農商工等連携の認定を受けた又は申請する予定である。
補助事業の活用	<input checked="" type="checkbox"/> 6次産業化に関する補助事業等を活用している又は検討している。 （事業名）活用できる補助事業があれば利用したい。 <input type="checkbox"/> 補助事業の活用は検討していない。

3 経営指標（決算情報）

	過去3年の実績			（単位：千円）	
	R2年	R3年	R4年	3年後(R8)の計画	備考
売上高（※）	32,333	34,650	38,020	65,150	
水稲	1,333	1,350	1,320	1,400	
トマト	15,000	17,500	19,200	19,000	
キャベツ	4,000	4,300	4,500	6,750	
ブロッコリー	12,000	11,500	13,000	18,000	
トマト加工品	—	—	—	20,000	
人件費（7）	3,200	3,000	3,200	3,800	
減価償却費（イ）	1,200	1,250	1,320		
経常利益（ウ）	9,733	10,860	12,008	12,260	
付加価値額 （7）+（イ）+（ウ）	14,133	15,110	16,528	25,380	

（※）売上高は、生産部門と6次産業化等農山漁村発イノベーション関連部門との区別がつく場合は、それぞれの売上高を記載する。  
 それぞれの金額は必ず決算書と一致させる（過去3年間の決算書の写しを添付）。

#### 4 これまでの支援状況及び現状の課題

##### (1) 奈良県農山漁村発イノベーションサポートセンター地域プランナー等の支援状況

<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	(「有」の場合、派遣プランナー名、派遣年度、派遣内容などを記載) ○○プランナーによるトマト加工品開発の相談(平成30年頃)
--	---

##### (2) 現在認識している課題

生産部門(1次)	卸売市場への販売では、高単価での販売が難しい。逆に、直売では全量を販売することができない。
加工部門(2次)	なし
販売部門(3次)	直売での販売は、手間がかかる割りに販売量が少ない。

##### (3) 支援を求める内容と現在の進捗状況

トマトなどの効果的な直売方法の検討 トマトを中心としたオリジナル加工品の開発とブランディング 現在は、ほとんど行っていない。
--

#### 5 経営ビジョン・戦略の概要

(今後の課題解決の方向性、経営戦略などを自由に記載)

これから、どうしていきたい、どんなことに取り組んでいきたいなど、将来の経営方針について、自由に書いてください。

加工品開発を含めたオリジナルブランドを確立することで、1次生産された農産物にも付加価値を付け、直売などによる有利販売を行う。  
 加工品開発については、極力委託加工を行い、施設投資、人件費の削減を行う。その分の労働力を、1次生産に回すことで、品質のよい農産物を生産し、ブランド力強化、所得の向上を目指す。